

令和 8 年度 グループまどか地域連携推進会議 議事録

開催日：令和 8 年 9 月 3 0 日 (水)

時 間：13 時 30 分～15 時 00 分

会 場：社会福祉法人アムネかつしか 2 階会議室

参加者：地域住民、入居者家族、保健師（新小岩保健センター）、入居者 2 名（グループまどかⅡ・まどかⅢ）

事務局：飛田よし子（社会福祉法人アムネかつしか理事長）、酒井章仁（グループまどか管理者）、
小山一正（グループまどかⅢ管理責任者）、大野侑花（グループまどかⅢサービス管理責任者）

開会

飛田理事長挨拶：今回の地域連携推進会議に大勢の方がご参加いただき感謝している。率直な意見交換できる場となるようご協力いただき、今後の事業所運営にきたい。

1. 地域連携推進会議の目的

障がい者グループホームの運営にあたり、利用者と地域との関係づくり、施設等や利用者に関する理解の促進、サービスの透明性や質の確保等を達成するために、2025 年度から義務化された制度。

2. 障がい者グループホームについて

グループホームは利用者が地域において自立した生活、社会生活を営むことができるよう支援する施設である。支援内容として、食事や掃除等の家事支援、日常生活上の相談支援、余暇活動支援、金銭管理、服薬管理、利用者の日中活動先等関係機関との連絡調整、介護が必要な利用者には食事や入浴、排せつ等の介護を行う。

利用者の希望に沿って「できる」ことを増やし、できないことは家族等に代わりサポートしながら自立を促進する。

3. グループまどかについて

グループまどかは、社会福祉法人アムネかつしかが運営しており、精神障がいがあり、様々な事情で困っている方に対して住まいの場を提供し、自立支援を行うグループホームとして 2002 年 11 月から事業を開始している。利用期間は最長で 3 年間の期限があり、その期間内で一人暮らしやずっと住めるグループホームなど新しい生活に向けてできることを増やしていくことを目的としている。

（1）グループまどかの変遷

- ・グループまどか 2002 年 11 月～事業開始
- ・グループまどかⅡ 2006 年 1 月～事業開始
- ・グループまどかⅢ 2024 年 12 月～事業開始 ※緊急一時入所事業も同時開設

※ 2026 年 9 月現在：定員 19 名 男性 6 名 女性 12 名 18 歳～69 歳の方が利用中

(2) グループまどかが大切にしていること

- ① 個別支援の重視：一律のルールとして決めず、その方に応じて柔軟に対応する（オーダーメイドの支援）。
- ② 住環境の整備：快適な住環境で良い生活体験をしてもらい、次のステップへの一助となるよう努める。長期入院された方や家族との関係がよくない方は、どのような家具を準備したらいいのかわからないことがあるため、すぐに生活できるように家具を常備している。
- ③ 生活の楽しみを提供：過去に辛い経験を経てホームに入られる方が多く、レクリエーションやお祝い会を通じて楽しみの機会を提供する。

4. グループまどか事業報告

①2025 年度グループまどか事業報告

【2025 年度の事業成果】

<稼働率>

空室保証を含めて 100%を維持（3 名入居、5 名退去）。最短で 1 年 2 か月待ち。現在待機待ち 2 名

<余暇活動>

- ・ 11 月まどか全体で幕張アパリゾートホテルに 1 泊宿泊旅行実施（2 年ぶり 13 名参加）。
- ・ 若洲海浜公園釣り&夢の島・植物園お花見、まどかクリスマス会、柴又帝釈天初詣、入居者誕生日会

<防災>

東京都の補助金を活用し、各ユニットに災害時用ポータ物蓄電池を設置。災害時の備えは全て揃った。

【今後の課題】

グループホームは、就労支援事業所、地域活動支援センターとは違い、365 日人員配置が必要だが常勤職員は各ユニット 1 名しか配置できない。また、緊急時に備えて休日や夜間でも常に業務用携帯を所持しなければならず心理的負担も大きい。ひとり職場のため、経験年数が必要なこと、同性介助の原則、資格(精神保健福祉士または社会福祉士)も必要で異動や退職時の職員充当が難しい。事業運営を長期継続していくうえで、法人として人員配置における課題整理と検討が必要。

②グループまどか入居者関係

○支援内容

入居されている方の状況に応じて、個別に支援内容を話し合っ決めていく。主な支援内容は、通院同行や診察への立ち合い、薬の管理等の医療面のサポート、出納帳確認や本人のお金を預かり、毎日または毎週お渡しする金銭管理、食事提供(提供回数も個別に対応)、日中活動先の見学に同行する健康面のサポート、掃除や入浴、洗濯、調理等の家事援助、手続きに同行する等日々の生活支援、退所後(入居から 3 年以内)の生活に向けて住まい探し。季節のイベントやレクリエーション、誕生日会等の余暇活動の実施。

○ グループまどか入居前と退所後について

2025 年度は家庭、病院、他施設からの入居がそれぞれ 1 名。緊急性や支援の必要性の高い方を優先的に受け入れ。退所先は、単身生活、ずっと住めるグループホーム、介護施設への入居がそれぞれ 1 名。家庭が 2 名。

5. サービスの質の透明性、利用者の権利擁護について

① 現在の入居者の日常の様子

・グループまどか

定員が 5 名で 4 名が利用中。9 月に 1 名退所、11 月に 1 名入居予定。年齢層は 30～50 代。障害者雇用 3 名、就労継続支援 B 型事業所 1 名。金銭管理、日々の相談、薬の確認、通院同行等をサポート。

・グループまどかⅡ

定員が 7 名。1 室はサテライト住居。年齢層は 10 代から 60 代。5, 8, 9 月に 1 名ずつ入居。障害者雇用 1 名、シルバー人材センター 1 名、就労継続支援 B 型事業所 5 名。食事提供、金銭管理、成年後見人との連携、掃除や洗濯等の生活面等をサポート。

・グループまどかⅢ

定員が 7 名で現在満室。年齢層は 20 代～60 代。個室タイプでバリアフリー対応。就労支援移行 2 名、就労継続支援 B 型 4 名、デイサービス 1 名。10 月～1 名障害者雇用。

② 2024 年度入居者のアンケート結果

令和 6 年度福祉サービス第三者評価をまどかが受審。その調査結果を基に説明。「困った時、職員は助けてくれますか」「グループホームで好きな活動をして過ごせていますか」「グループホームで落ち着いて過ごせていますか」という問いに対し、おおむね「はい」という回答が多かった。一方で「グループホームの職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」という問いに対し、「いいえ」という回答が 1 名あった。改めて職員間で共有し、日頃から安心感を与えられるように支援の質の向上に努めている。その他の問いや自由記載から見ても、支援の質や職員に対して入居者の満足度は高いと言える。

③ ヒヤリハット・事故報告書

まどかⅢから 1 名、緊急一時入所事業から 1 名報告。

6. 感染症・災害時の取り組みについて

業務継続計画は災害、感染症ともに令和 5 年度に策定済み。

○感染症

年に 2 回、訓練と研修を実施。コロナ等の感染症が発生したときに備え、受け入れ医療機関リスト
日々の体調チェックリスト、濃厚接触者リスト作成。感染者が出た場合はチェックリストを活用し個別に対応。日々の対応として、毎日入居者は検温、スタッフは消毒及び換気を徹底。令和 8 年 6 月 20 日に感染症研修を実施し、食事提供時の注意点やノロウイルス対応について確認した。

○災害対策

年に2回、訓練と研修を実施。災害用ラジオ、入居者の各居室に災害リュック（災害時の食料・飲料水3日分、防寒グッズ、ヘルメット、救急用品等）と各居室に常備灯を配置。事務所の災害リュックには加えて緊急連絡先、お薬一覧表を入れている。また、避難訓練で入居者へ災害伝言ダイヤルのやり方を説明。災害時の食事提供ガイド、備品チェックリスト、被害状況チェックリスト、災害時の行動手順書を新たに作成。また、震災に備え各年度ごとに順次整備した。

2024年度：各ユニットに500ℓ、1,000ℓの災害時生活用水タンクを設置。予備食料を購入し、災害時に2週間程はグループホームで生活ができるよう整備。

2025年度：都補助金を活用し、災害時用ポータブル蓄電池を各ユニットに設置。ライフラインを整備。

2026年度：水害対策としてまどか・まどかⅡに土嚢設置。12月研修、水害訓練実施予定。

7. 意見交換

- ・グループホームに入って、今まで自分の見えていなかった部分が見えるようになった。
- ・実家が近く、土地勘のある場所でグループホームに入れたから安心感がある。掃除の課題があったが、トイレ掃除やお風呂掃除、洗濯機の使い方や干し方を覚えた。料理を教えてもらっている。グループホームでの生活は非常に満足している。健康面をチェックしながら無理のない生活を送りたい。
- ・住み慣れた場所で一人暮らしの準備ができる環境になっている。これまでの生活から支援者が関わる生活に変化があったと思う。
- ・家族が大変な時に、本人の体調面をサポートしてもらえるのはありがたい。離れて生活するようになって定期的に会って話している。
- ・ヒヤリハット報告事例のようなことがあった時、周辺住民が「大丈夫かな？」と心配した。助けを求めていることはわかったが、どこに住まわれている方がわからず警察に対応をお願いした。
- ・本人の生活圏で生活を続けられることが大切だと感じた。誰がいつどうなるかわからないから、グループホームの存在を地域の人にも知ってほしい。障害に関係している方には情報があるが、かかわりのない方はほとんど知らない。最終的には人と人のつながりが大事になって「助けて」と言えば助けてくれるのが地域だと思う。
- ・法人立ち上げの時は地域の方々に知っていただくために様々な工夫をした。事業拡大や職員の業務負担度が高くなっている現状はあるが、地域との関係をよくしていく必要性を改めて強く感じた。
- ・障害者を『危険』と感じてしまう人がいる。いろんな人がいるということを知ってほしい。
- ・相談に来られる方は家族の中で様々な問題をかかえていることが多い。相談に来ていただければ、一つずつ整理して、どのよう進めていくか一緒に考えていくことはできるが、理由があって相談に来られない方もいる。すべての住民の状況を把握できていない中で、実際に生活されている地域住民だからこそ目の届く方がいらっしやると思う。福祉施設や相談窓口があることを知ってもらうための普及啓発をしながら、住みやすいまちにするにはどうしたらいいか伝えていくことも役割の一つだと感じると同時に、その難しさも感じた。